



消防団の活動

愛するまちを守るために

みんなは「消防団」って何をしているか知ってる？

消防団とは、市町村の消防のための団体のこと。地域ごとに分団があって、市内には13分団あるんだよ。所属している人は、普段はそれぞれ仕事をしているんだけど、火事や災害が起きたときは、仕事の途中でも災害現場に出動するんだって。「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛を持って、恵那市のために活動する人たちはすごくカッコいいね！



▲音楽隊の演奏は素敵だったな♪

どがあつて、多くの人でにぎわっていたよ。消防団の音楽隊やラッパ隊の演奏もあつて、すごく楽しかったんだな。音楽隊やラッパ隊は、火事や災害に出動する消防団員とは違って、消防に関心を持ってもらうためにイベントなどで演奏するんだよ。消防団には他にも、女性が入団できる女性消防隊もあるんだな。



▲消防技術を磨く大会に参加しよう

最近、消防団員の数がだんだん減っているんだって。消防団は年間を通して団員を募集しているから、恵那市のために貢献したいと思っている方はぜひ、市消防団に入団してね！

問 消防課 26-0297

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsで未来が変わる Vol.33

SDGsをもっと身近に感じてもらうため、「市SDGs推進協議会」加入団体の取り組みを紹介します。

問 SDGs推進室 26-6806



関連するSDGsの目標



「Aeru SHOP」の店舗では直接商品を見ることができます



一般社団法人 ジバスクラム恵那

恵那らしさを追求し、稼ぐ観光都市を目指す団体です。恵那ふうど認証事業にも取り組んでいます。

これまでのSDGsの取り組み

サスティナブルツーリズムの情報発信

持続可能な観光地を目指し、市の自然や文化を生かした観光地づくりの情報を、インスタグラムなどで発信しています。

地域版ECサイトの活用

宿泊やアクティビティの予約、五平餅などの特産品の購入ができる販売サイト「Aeru」を運営しています。

家庭でできるSDGs ～フードドライブで「もったいない」を「ありがとう」へ～

10月20日の市制20周年記念式典とエナフェス会場で、フードドライブを実施しました。寄付された食品は、市社会福祉協議会から団体や個人などに届けられます。フードドライブポストは市内5カ所に常設していますのでご利用ください。

関連するSDGsの目標



市ウェブサイトフードドライブのページ



▲フードドライブポストで家庭で使いきれない食品を回収

恵那暮らしビジネスサポートセンターだより

Ena City Life Business Support Center



＼恵那暮らしビジネスサポートセンターを利用ください／

センターでは、市内の「はたらく」を推進する機関として、経営や創業の支援、就職の支援などを行っています

ビジネスに関する相談会の案内

ビジネスに関する悩み解決のお手伝いをします。電話かメールで予約ください。

ウェブの集客と分析相談会

1月11日(土)

こんな方におすすめ

ホームページはあるけど効果が上がらない
効果的なコンテンツの作成方法を知りたい



マーケティングプランナー
水谷幸司氏

ITなんでも相談会

1月14日・28日(火)

こんな方におすすめ

ホームページを作成したい
SNSを活用したい



コーディネーター
篠田里恵氏

ネットショップなんでも相談会

1月21日(火)

こんな方におすすめ

自分でネットショップを運営する方法を知りたい
ネットショップの仕組みと出品方法



コーディネーター
山口仁美氏

事業承継に関する相談会

1月22日(水)

こんな方におすすめ

後継者がいなくて困っている
どのように承継していくのか知りたい



コーディネーター
井上学氏

問 恵那暮らしビジネスサポートセンター 恵那市大井町206-5 26-2266 info@enalifebizsupport.jp
営業日 月～土曜日(午前9時～午後5時) 定休日 日曜日、祝日、年末年始



物知り先生のふるさと情報

恵那にあった民有鉄道

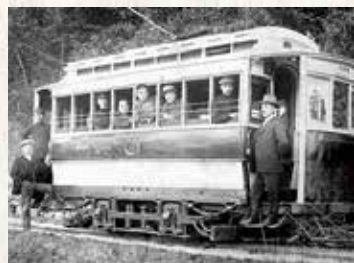
その一 岩村電車

西部 良治さん

明治時代後半から昭和10年代初めまで、恵那には二つの民間の鉄道がありました。一つ目は、大井から岩村まで走っていた岩村電車。二つ目は、非常に短期間の営業でしたが、新大井駅から恵那峡まで通じていた北恵那鉄道大井線です。

それでは、今月号は岩村電車の話をしていきましょう。

次の写真を見てください。シルクハットをかぶった紳士や、制服を着た車掌、乗客の姿が見え、行き先には「大井行」と表示されています。これが明治39年に県内で初めて開通した岩村電車です。岩村から約1時間かけて、今の恵那駅(当時は中央線大井駅)まで通じていました。



▲岩村電車を利用する人々

岩村電車を創設したのは、岩村の

庄屋出身の浅見與一右衛門です。與一右衛門は、幕藩時代に東濃で最もにぎわっていた岩村が、時代の変化と共に取り残されてしまうことを心配していました。そこで、その打開策として、岩村から大井へ鉄道を開設することを思い立ちます。鉄道があれば、旅客の利用はもちろん、恵南地区から岩村に集積される物資を大井まで運ぶことができ、さらに中央線で各方面にも運ぶことができました。これを実現するために、與一右衛門は資金を調達し、明治36年に岩村電気軌道を設立します。山間の渓谷を切り開く大がかりな工事や、度重なる資金難を乗り越え、3年後の明治39年、ついに全線を開通させました。



▲浅見與一右衛門